

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200293		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街浜北		
所在地	静岡県浜松市浜北区於呂2406-1		
自己評価作成日	平成29年6月9日	評価結果市町村受理日	平成29年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/227/index.php?action=kounyu_detail_2016_022_kani=true&ligvsvnoCd=2297200293-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の定着率が高い為、利用者の体調の変化などの対応がよくできています。午前中は、ぬりえなどの軽作業、午後は体操をしたり、歩け歩けとフロア・廊下を3周ほど回ってもらっています。毎月のお茶会、ご朱印帳の旅と題して近場の行楽地など、出掛ける楽しみに繋がるようにしています。「あいの街フェスタ」では、一般来場者と一緒に飲んだり、食べたり楽しいひと時を過ごしました。地元の方のトラック市で野菜を売ることが出来、交流の場としてもいい時間となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

思い出写真や季節のモールが連なり、品よく愛らしいクラフト作品に包まれたリビングで、利用者全員がテレビを囲んで仲良く見入る様子から、普段の安寧が伝わる事業所です。2011年開設の翌年から始まった事業所祭りは年によっては名を替え、内容を拡げています。去年はトラックで物産を販売する市が盛況で、来客者に振舞う軽食200名分があつという間に消費されています。また理念「笑顔のある生活」を礎とする「一諸に楽しく年をとっていききたいなあ」との想いは、ご朱印帳を模した「スタンプ帳」を携帯しての小園神社参拝、天浜線に揺られ田園風景を堪能しつつSLのある二俣駅まで足を延ばす外出支援に昇華しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔のある生活」の実践に向け、日々の生活の中で一人一人の個性が出せるよう努力する。	共用空間に貼り出した笑顔の写真では「家ではこんな顔したことなかった」と面会の家族が驚き、もらって帰る人もいるほどで、「笑顔のある生活」が蔓延していることが視えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回のフェスタ、ボランティアさんの受け入れ、お祭り・防災訓練への参加、2ヶ月毎の運営推進会にて、地域の方々との交流を図っている。	業者協力を得てAEDでのデモンストレーションをおこなったり、地域住民の手によるトラックでの物産市が開かれたりと、双方の資源を活かした交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験の受け入れ、NPO法人による中高生お年寄り疑似体験への協力		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催させて頂いています。その都度、事故・ヒヤリハットの報告をさせて頂き、皆様からのご意見を参考にさせて頂いています。	民生委員や自治会から4名もの地域メンバーが集まり、地元ならではの情報が飛び交う場として定着しており、訪問前の会場の詳細や利用者作品を披露する場を教えてもらえたとの実績につながっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を依頼させて頂き、運営推進会議の議事録の提出をさせて頂いています。	施設長の交替での煩雑さから運営推進会議の案内が遅れてしまい、出席いただけなかった回もあったことは反省点としてありますが、現在では落ち着き、漏れのない段取りとなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の連絡を密にし、安全に生活ができるように、対策を常に共有しています。	身体拘束排除に係る研修会を年1回は実施するよう位置付けており、現状必要な症状の利用者もいません。スピーチロックについては管理者がやや気になるとして、良い方向にゆけたらと、是正策を模索中です。	スピーチロック的な発言は個人の気質や癖ではなく、繁忙時や頻回に繰り返される認知症状に対してでがちのようですので、原因と対策を協議していくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時における全身観察、表情・言動にも注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の中で各職員にも伝え必要な時は活用できるように努力する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族様に納得できる説明を行い、必要な時は、ご家族様からもご本人様にお話し頂くようお願いをさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	短期目標・長期目標などケアマネを通じ作成し、その都度、ご家族様・ご本人様の要望を聞き、プランに反映させている。	面会や事業所行事などで来訪は充実しており、また何事にも協力的で事業所は助けられています。さらに外部評価のアンケートの回収率も約7割と高い数値でした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご本人様の体調の変化など、どのようにケアするのかを職員で話し合い、ご家族様相談の上、決定させて頂いている。	入浴方法を替えています。週2日～3日終日空けることでレクリエーションや外出支援にじっくり取組めるようになった事も職員の進言からで、常日頃から発言は活発です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ひとり一人が、楽しく・前向きに仕事に取り組むことができるように配慮する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・外部研修にも参加できるように考える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内で行われる施設研修や、セクション会議へ参加し各施設長とも交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず寄り添い、話をする中で希望や得意なことを把握し、穏やかで平穏な生活が出来るように配慮します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されるまでの様子を伺い、ご家族様・ご本人様の不安を取り除くことが出来るまでゆっくりと話し合います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・ご本人様とお話しさせて頂き、ケアマネとも話し合いご納得の上でサービスの開始に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の抱える問題に答えられるように努力します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・家族・ご本人様が少しずつ協力し、良い関係で支え合える環境を築くように努力します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、どんな時でも来所・御面会ができるようにしています。	ドライブの帰りに「ここだね」と自宅の前を通過して確認したり、編み物が得意だったけど今は無理となった人には毛糸ほどきを続けてもらっています。季節行事を気にかける職員が多くおり、年末の餅つきも継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が孤立されないような声掛け、レベルの低下などに伴い場所の配置などその都度、臨機応変にできるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であれば、フォローさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今の思いをなるべく長く継続できるように配慮しています。困難な方もご利用時から長くなってきているので意向を察することもでき、ご家族とも相談しながら対応させて頂いています。	「一諸に楽しく年をとっていきいたいなあ」「いつか最期の日を迎えるとき、此処でよかったとなったらいいね」を基軸に日々の生活を支えており、例えば五平餅作りを仕事としてきた人には作り方の指導をお願いしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時のアセスメント、入所後の日々の会話から、また、ご家族面会などの会話から必要な情報は、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を皆様フロアで過ごされることが多く、レクの最中・見守りながら観察をさせて頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	誰か一人の職員が気付いてもみんなで共有できるように申し送り、ノートに記載しミーティングなどで話し合いケアプランを決定しています。	担当制を敷いており、担当者は最も本人を理解するとしてモニタリングでは中心となって話しています。ただし、性向や知識差もあって発言量に差があるため、その点は今後の課題としています。	ペアディスカッションや、事前にプリントを配布することによる意見整理など、是正策が進行することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護・看護記録に記載し、口頭での申し送り・申し送りノートで確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化は、随時ご家族様に伝え、ご本人様とも話をし、柔軟に対応させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力による、お茶会・演芸を楽しむ、お食事・お花見など季節行事を積極的に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのご本人様とご家族様による受診。月1回の主治医による往診、専任看護師による体調管理に努めています。緊急時には、ご家族様と話し合い迅速に対応しています。	以前の協力医が「介護度1、2のうち家族に通院介助してもらったほうが関係が保てているのでは…」との方針だったのを事業所が踏襲し、現在の協力医の訪問診療も介護度3～としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化があった場合は、看護師に相談し、ご家族様に伝え受診など適切な処置を行えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至るまでの施設での経過報告をし、入院中も病院での経過の把握し、注意点など病院関係者と情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、急変・緊急時の対応を話し合い、医療的処置の無い場合の看取りは可能であると説明しています。入院時のサマリーやお見舞いに行き、病院関係者とも情報の共有をしています。	看取りをおこなう事業所として家族にも契約時に説明しており、実際ここ2年の間にも1名のお見送りをおこなっています。決して積極的ではないものの、看取りを通じて学ぶものも多く、職員は自然に業務として受け入れています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で緊急時の手順をその都度確認合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練への参加。施設内での定期的な避難訓練を行っている。	年2回の法定訓練の内1回は新たなチャレンジをおこないました。勤務外の職員に「緊急招集」を発信して、集合時間を計測するとの試みは、職員が有事の場面も実感する貴重な機会となりました。	地域連携の一環として、近所の公民館と事業所の備蓄内容について相互に相談する機会があると、なお良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の出来る事、出来ない事を把握し、それに沿ったレクなどの構築を進めている。	現在利用者は男性3名、女性6名の構成であり、同性介助が実践しにくい状況ですが、特段利用者から要望はありません。呼び名は関係性を重視し、ルールは定めず、本人本位でおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、丁寧に話すことを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の変化、精神面などへの対応もゆったりできるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の理美容提供。季節の衣替えなどのお願いを家族へお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夏の流しそうめん、春の味噌作り、冬の餅つきは恒例となりました。普段の食事後の片づけもお願いするようにしています。	食材と献立が業者から届き、職員の手づくりで毎日提供されています。寝たきり状態の利用者1名についても昼食時にはリクライニング式と食事介助に困って、皆で食卓を囲むよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時・15時・入浴後の水分は必ず摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夜間は義歯洗浄剤に浸けてあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、排便コントロールなどにきを配っています。ご本人のタイミングで行えるようにしています。	布パンツは1名で、他はリハパンやオムツを使っています。トイレにパットを常備していますが、目隠しカーテンを施している様子からは心配りが伝わります。頻繁にトイレに行きたがる症状への対応工夫は現在進行中です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘・下痢を把握し、その方にあったコントロールができるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが、その都度必要な時の対応はさせて頂いています。	3面から脚を入れることができる広い浴室です。重度化に伴い道具が増えていても掃除が行き届き清潔です。普段浴剤は使ってませんが、柚子湯やしょうぶ湯といった季節を感じるお風呂を気にかけて取り組んでいます。	清掃や入浴に使用する大型ボトルが定められた置き場所に戻るよう、何らかの工夫があると素敵だと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	プライバシーの保てる個室の提供、週1回のシーツ交換、季節の布団交換。自由に過ごせるよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更がある時は、職員間で共有し、配薬・服薬は複数の職員によるチェックにより、誤薬への防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出レク・ボランティアさんによるお茶会・イベントの参加。日常における新聞折りや毎朝の居室の掃除などを行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の近くのスーパーへの買い物の付き添いなどを行っています。その際、花壇の草取りをして頂いたりしています。	目の前の通りの交通量が多いため、駐車場でおやつを食べての外気浴との小さなお出かけタイムを作るほか、時には都田のいちご狩り、岩水寺の花見、小國神社で甘酒を堪能したり、田園風景を眺めつつ天浜線に揺られるミニ旅行にも挑戦しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話は自由にできますし、暑中見舞い・年賀状をご家族あてに出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出したり、イベントの時に撮影された写真を展示し、季節・思い出を共有できるようにしています。	居室前には職員手作りの山小屋風のお洒落な表札が下がっていたり、階段や廊下の壁には思い出写真や季節のモールが連なり、品よく愛らしいクラフト作品に包まれた共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋でメドマを使用しマッサージを行って行って頂いたり、テーブル席にて隣の方と会話し個々の空間作りに心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室にて提供させて頂いております。気に入った写真を飾ったり、季節に応じて模様替えをしたりと工夫しています。	ベッドの持ち込みは減り、最初から介護用ベッドをリースしている人もいます。やや殺風景で似たような部屋との印象ですが、足元にまったくモノがないため動線確保は万全です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	フロア内の表示を少なくしています。段差など転倒しないよう配慮しています。		